

わ け 和気地区

面積：7.09 km²
人口：12,307人（高齢化率 28.7%）
世帯数：5,512世帯

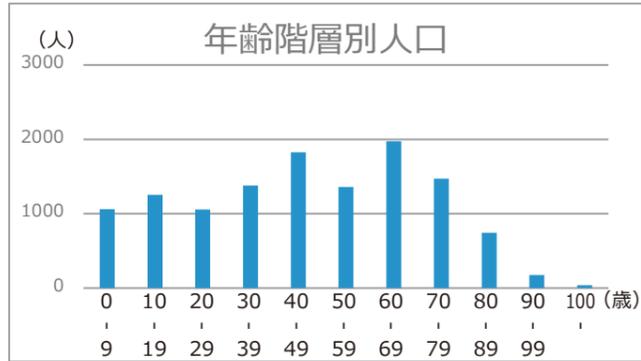


【地区の特色】

和気地区は、松山市の北部に位置し、かつては農業と漁業を中心とした地域であったが、時代の都市化とともに、企業をはじめマンションや住宅等が凌ぎを削りあうように建ち並ぶ地域となった。また、他地域からの転居者も増加し、住民意識も変化しつつある。しかし、日頃から町内会や各種団体は相互の親睦や連携がとれており、地域一体となった様々な活動が展開されている。



独居老人安否確認パトロール出発式



【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> 関係機関（公民館、町内会連合会、地区民協、病院、警察等）との連携が取れている 和気公民館のリーダーシップ ・青パトによる安全パトロール（毎月 5,15,25 日） 小中学校、みなら特別支援学校城北分校の福祉活動への協力体制が整っている お接待、グループホーム訪問、独居老人安否確認パトロール 地区社協と地区民協との協力（地区民協の会合に参加） 宿泊体験学習、ウォークラリー（三世代交流） 和気っ子安全パトロールによる安心安全のまちづくりが行われている 福祉施設が多くあり、秋祭りには神輿を迎え入れてくれる 海の日の大生大会（1200人参加）による防災意識の強いまちづくり ・災害が少ない 地域の大きな行事が多く参加者も多い ・地域の団結力がある ・緑多き田園地域
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> 和気浜海岸が近いこと、南海トラフ地震への不安が大きい 子ども会が減っている ・児童の親との親睦が少ない 仕事をしている世帯の地域行事への参加が少ない 福祉活動に携わる年齢が高い 地域のつながりの希薄化が現在進行中 田舎なので夜間の道が暗い 休耕地、耕作放棄地の増加
福祉課題	<ul style="list-style-type: none"> 少子高齢化により地域の負担が増大する 地区社協活動への理解 町内会で地域活動に温度差がある ・町内会の役員の引き受け手が少ない 現役世代の関わりが少ない ・興味のある行事にしか参加しない 一部、買い物や通院に不便な地域がある ・集いの場に行きたくても手段がない 隣近所の付き合いが希薄化しており、昔のような井戸端会議がなくなった 独居高齢者の把握が難しい ・公共交通の乗り物が少ない

和気地区社会福祉協議会

安心・安全・笑顔^{わ け}を和気よう！

構成団体	地区民協・町内会連合会・公民館・共同募金会・小学校・中学校・支所・農協	
主な取り組み	活動内容	
独居老人安否確認パトロール	一人暮らし高齢者を対象に、中学校の生徒が地域住民とともに高齢者宅を訪問し、高齢者の安否確認や地域での見守りの強化を図っています。	
合同研修会	地区社協・地区民協、町内会連合会と連携を高めるため、毎年合同で研修会を実施しています。	
放課後子ども教室への協力・支援	地区社協の関係者が放課後子ども教室の支援を行っています。	

お接待

公民館と連携し、和気地区にある四国八十八ヶ所の札所「太山寺」から「圓明寺」に向かう道沿いに位置する和気公民館にて、毎月歩き遍路の人々をお接待でお迎えしています。

子どもたちによるお接待の日もあり、地区社協としても活動支援を行い地域での福祉学習を推進しています。



<地区社協が目指すもの>

和気地区社協は、高齢者、子ども及び障がい者への福祉を3本柱とし、公民館・地区民協・町内会連合会との連携を密にして地域福祉の推進に取り組んでいます。

- (1) 独居老人安否確認パトロール
- (2) お接待
- (3) 放課後子ども教室への協力・支援
- (4) 合同研修会（社協・民児協・町内会連合会）
- (5) みなら特別支援学校城北分校との交流
- (6) グループホーム訪問

以上の事業を中心に今後も地域住民の方が安心・安全に暮らせる和気地区を目指しています。

地区の状況	■地区民協 民生委員 主任児童委員	21名 2名	■町内会・自治会・区長会等	22団体
	■まち協の設立	-	■高齢クラブ	7クラブ
			■子ども会	1団体
			■自主防災組織	26組織

本地区は、都市化など時代の波の影響を多く受けながらも、地区特有の「おせったい」の文化を生かし、地域住民と様々な機関が連携を取り合い、防災意識の向上や子どもたちへの福祉学習をはじめ、高齢・障がい・児童分野など活動が多岐に展開されており、現在、将来にわたり安全・安心に暮らせる地域づくりが進められています。今後は、その中で培われてきた「地域力」の維持または時代の変化に即した対応が望まれ、自然環境も含めたさらなる地域の社会資源把握、課題の抽出と対応が必要になると考えられますが、災害時にもその「地域力」が発揮できるような組織づくりがとて期待できます。



地域カルテ ～地区ごとにみる地域特性～

『地域カルテ』とは

日常生活における不安や悩み、生活課題が複雑化する中、私たちが安心して暮らせるまちづくりに取り組むためには、まずは自分たちが生活する地域を知ることが必要です。自分たちの地域がどのような状況にあるのか、いわゆる地域の健康状態の記録(カルテ)を作成することで、その時々自分たちの地域の強みや弱みを把握するとともに、地域の魅力や課題を共有することにより、住民の地域福祉活動への参加意識の醸成と今後の活動の活性化につなげることが可能となります。今後は小地域ごとに様々な視点から、より詳細な地域分析を行い、それらをもとに地域の特性に応じたまちづくりに取り組んでいくものです。

第1	五明地区
	伊台地区
	湯山地区

第6	宮前地区
	三津浜地区
	高浜地区
	興居島地区
	中島地区

第8	浅海地区
	立岩地区
	難波地区
	正岡地区
	北条地区
	河野地区
	粟井地区
	立岩地区

第2	久米地区
	浮穴地区
	小野地区
	石井東地区
	石井西地区
久谷地区	

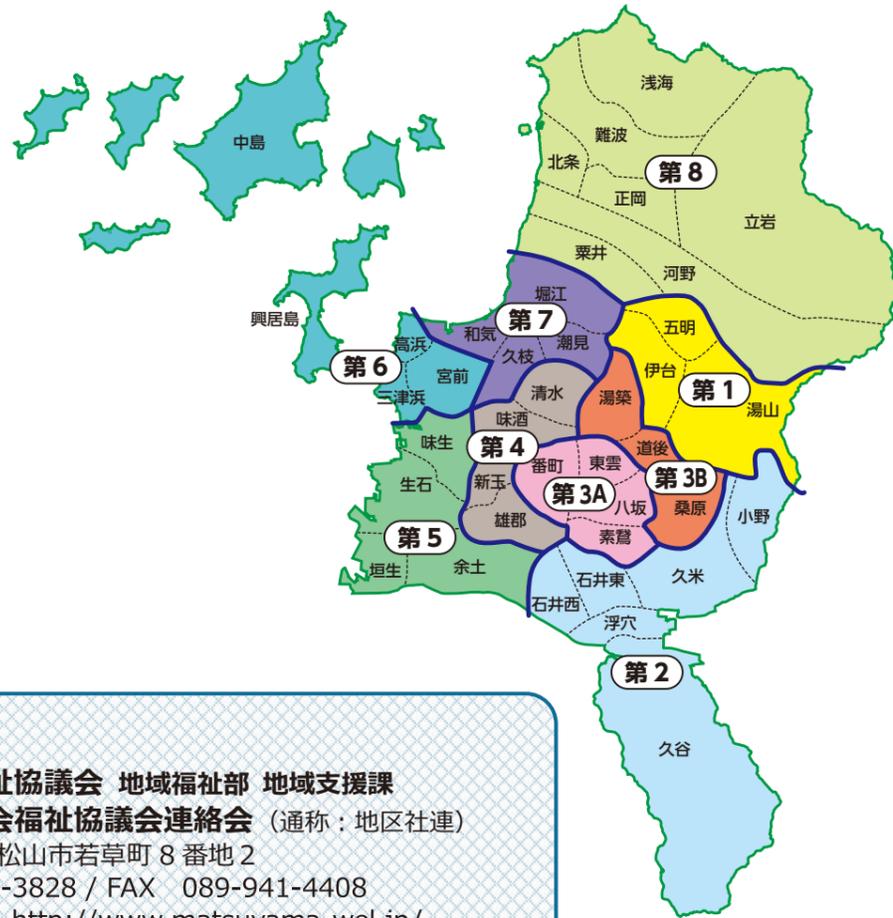
第7	潮見地区
	久枝地区
	和気地区
	堀江地区

第3A	番町地区
	八坂地区
	東雲地区
	素鷲地区

第3B	道後地区
	湯築地区
	桑原地区

第4	雄郡地区
	新玉地区
	清水地区
	味酒地区

第5	余土地地区
	垣生地地区
	生石地区
	味生地地区



発行日 平成31年3月

発行 松山市社会福祉協議会 地域福祉部 地域支援課
松山市地区社会福祉協議会連絡会 (通称: 地区社連)
〒790-0808 松山市若草町8番地2
TEL 089-941-3828 / FAX 089-941-4408
Web アドレス <http://www.matsuyama-wel.jp/>

作成 地区社会福祉協議会 / 松山市社会福祉協議会

<『地域カルテ』の見方>

掲載情報は随時、追加・更新し、各地区の地域福祉推進に活用していきます!

①地区の概要

- ・面積、人口、世帯数、高齢化率は松山市地区別推計人口、また、年齢階層別人口は松山市地区別年齢別住民基本台帳登録の平成30年4月1日現在のデータを記載しています。
- ・地区の特徴は松山市公民館連絡協議会ホームページを参考にしています。

②地域住民からみた地域の状況

- ・研修会のワークショップや会議の意見として、地区社協関係者や民生委員・児童委員をはじめとする地域住民の方々から出された内容をまとめて記載しています。

③地区社協の概要と取り組み

- ・平成30年度現在の各地区社協の活動状況及び地区社協が目指すものを記載しています。

④地区内関係団体データ

■地区民協	平成30年4月1日現在の定数
■まち協の設立	平成30年11月1日現在の設置状況
■町内会等	平成30年度町内会等状況調査(基準日:平成30年6月1日)
■高齢クラブ	松山市高齢クラブ連合会登録数(平成30年4月1日現在)
■子ども会	平成30年度松山市子ども会連合会加入数
■自主防災組織	自主防災組織 地区別結成状況(平成30年4月1日現在)

⑤地域福祉推進のポイント

- ・聖カタリナ大学 教授 恒吉和徳氏をはじめとする学識経験者の皆様から地域福祉推進に向けたコメントをいただいております。

《ご協力いただいた聖カタリナ大学の先生方》

教授 田中顕悟氏、准教授 村岡則子氏、准教授 釜野鉄平氏、助教 近藤益代氏